新規登録者養成カリキュラム一覧（平成２３年度実施分）

次の研修Ａ～Ｆを養成のカリキュラムとする。
養成カリキュラムを修了した者は、研修修了者登録がされ、登録試験の受験資格を得る。

研修Ａ－知床五湖におけるヒグマ対処法の研修（参加人数：１回につき最大１６名）	
座学（半日）	①利用コントロールの目的（自然環境への負荷低減、安全管理） ②知床五湖の利用コントロールのルール解説（概論） ③知床五湖登録引率者の役割 ④知床五湖におけるヒグマの現状 ⑤ヒグマの生態・行動特性 ⑥遭遇回避、遭遇時の危機回避 ⑦持ち物・装備
実地（半日）	①危険な遭遇を回避するための対処法 ②遭遇時の危機回避の方法 ※フレペの滝遊歩道等の利用調整地区以外での実施とする。

研修Ｂ－知床五湖の利用コントロール運用に関する研修（参加人数：１回につき４名程度）	
座学及び実地（半日）	①知床五湖の利用コントロールのルール解説 ②無線連絡に関する講義と実技 ③ヒグマ撃退スプレーの試射
実地演習及びふりかえり（半日）	①利用コントロールの運用・遭遇時対応についての演習 ・予約と事前レクチャー ・ヒグマ遭遇回避法 ・ヒグマ遭遇時の危機回避法 ・無線連絡方法（ヒグマ活動期運用無線と別系統で実施） ②ヒグマの痕跡の見分け方 ③演習のふりかえり及びインターン研修の諸注意説明 ※ヒグマ活動期に利用調整地区の立入許可を得て実施 実地研修の際にヒグマが目撃された場合は引き返し、別日実施。

研修Ｃ－インターン研修（ヒグマ活動期のツアー同行）	
実地（ツアー同行） ２日間程度	①２ツアー以上の同行 ②レポート作成・提出 ※ツアー実施中の中断についても１ツアーの同行と認める。立入前の中止については１ツアーとしては認められない。 ※ルートのポイント通過時間の記録、ヒグマ痕跡の報告、遭遇回避対応の必要箇所に関する地理的記述などをまとめたレポートを提出。

研修Ｄ－遭遇事例のケーススタディミーティングへの参加	
座学 ２回	ミーティング参加 ○知床五湖登録引率者間の遭遇事例ケーススタディミーティングへの参加 インターン修了者向け研修 ○遭遇事例ケーススタディミーティングの結果より解説 ※知床五湖登録引率者のケーススタディミーティングは、シーズン中２回開催されるため、これに参加する研修。

研修Ｅ－インターン研修２（ヒグマ活動期-知床五湖フィールドハウス受付業務対応）	
実地（受付対応） （１日）	①１日間のヒグマ活動期受付対応のインターンを実施 ②レポート作成・提出 ※指定認定機関の運営を補助し、フィールドハウスカウンターにて当日受付対応、無線対応の補助等を行い、利用調整地区制度の内容・ルールを把握する。 ※フィールドハウスの日報を基本としたレポートを提出。

研修Ｆ－自主引率の実施	
実地	①ヒグマ活動期期間中４回以上のフレペの滝や羅臼湖等の引率、４回以上の植生保護期知床五湖の引率を行う。（２名以上の同行者を連れての引率とする。ガイド未経験者は回数を増やし実施する。） ②レポート作成・提出 ※ヒグマ活動期（知床五湖では 5/10～7/31）に審査部会が認める知床の他地区での引率や植生保護期の知床五湖での引率の経験を評価。一般利用者を同行者とし、引率の結果、ヒグマの痕跡等の情報を日誌（現地写真付き）にまとめたレポートを提出。

研修Ｇ－多人数時引率の研修	
座学・実地	①自主引率にて８～１０名の多人数の同行者の引率を経験しなかった者に対し実施する。 ②ガイド経験者による講義 ③モデルツアーの実施等による多人数ツアーの実施を予定（植生保護期の知床五湖地上遊歩道にて）

【年度内に所定のインターン、自主引率の回数が実施できなかった場合】
実施回数の半分までを次年度に繰り越せる。ただしルール変更等で養成カリキュラムが変更となった場合には、換算できない場合もある。インターン、自主引率以外の研修は、繰り越せず、次年度再履修することとする。

【研修修了者登録】
なお、研修修了者は養成カリキュラムの変更がない限り、有効期間３年間の研修修了者登録がされる。研修終了者登録後、登録引率者に登録される前に研修カリキュラムの変更があった場合、追加されるカリキュラムを補講することで有効期間の継続が可能となる。